

◆ 冬の忘れ物を取りに行く ◆

昨年の今頃は、急な臨時休校のあおりを受け、部活動を含む様々な教育活動の多くが中止、延期を余儀なくされていたけれども、幸いなことに今年は一律中止の状況にはなっていない。各部活動においても、感染対策を徹底し地区大会が開催されている。



昨年12月21日のこのメッセージで本校ハンドボール部のことを書いた。

「凍てつくこの冬にどれだけ自分を鍛えることができたかが次の成長に繋がる。…今回の一人一人の“涙”がどのような意味のものであったのか、よく見つめ直して欲しい。」と。

昨冬。相手チームの雰囲気にも飲まれ、形勢挽回することなく敗北した。あれから4ヶ月。厳寒の冬を越えて、彼らは再びコートに立った。時間は人を変えていく。一回り体つきも大きくなり、顔貌も逞しくなった彼らがそこにいた。

シュートが決まると拳を突き上げて喜びの表情を作る。こんなことさえ昨年の冬はできなかった。後半、連続シュートを決められディフェンスが不安定になる状況を見せたが、何とか振り切った。

試合後彼らにこう言った。

「いよいよ県大会だ。こんなものではないはずだ。冬の忘れ物を取り返しに行こう！」

試合後も、コート外で監督のK先生の指導が続く。

彼らの挑戦は始まったばかりだ。どこまで変わることができるか、楽しみに見続けようと思う。

